

事 務 連 絡
令和 3 年 9 月 3 日

関係各位 御中

成田空港検疫所

日本脳炎ウイルス遺伝子が検出された蚊の発見について（第 2 報）

日頃より検疫業務についてご理解、御協力頂きまして感謝申し上げます。

先日、当所より 8 月 23 日付け事務連絡「日本脳炎ウイルス遺伝子が検出された蚊の発見について（情報提供）」において、日本脳炎ウイルス遺伝子が検出された蚊の発見についてお知らせし、注意喚起を行ったところです。

その後の詳細な検査の結果、日本脳炎ウイルス I 型遺伝子であったことが確認されました。これは現在、国内において流行しているものと同じものとなります。

当該検出事例を受け、8 月 23 日から南部貨物地区における重点的な蚊の成虫調査を実施したところ、下記のとおり捕獲したコガタイエカから日本脳炎ウイルス遺伝子が再度検出され、現在、詳細な検査を実施しているところです。

なお、第 1 報（8 月 23 日付け事務連絡）に重ねての注意喚起とはなりません。コガタイエカは夜間に活動し、日没直後から吸血活動が活発となりますので、この時間帯の屋外での活動については、蚊に刺されないための対策をとっていただくよう、お願いいたします。あわせて、日本脳炎ウイルスを保有する蚊が海外に持ち出されることがないように、あらためて機内への侵入防止対策を徹底していただくよう、よろしくお願いいたします。

1. 捕 獲 日 時 : 令和 3 年 9 月 1 日
2. 捕 獲 場 所 : 成田国際空港南部貨物地区（別添地図参照）
3. 捕 獲 状 況 : 南部貨物地区を中心とした重点的な蚊の成虫調査において、ドライアイス誘因ライトトラップにより蚊の成虫を捕集し、病原体検査を実施したところ、日本脳炎ウイルス遺伝子を確認。
4. 検 疫 所 の 対 応 : 南部貨物地区を中心とした重点的な蚊の成虫調査を継続、あわせて関係者への注意喚起（第 2 報）を実施。

(参考) 日本脳炎 Japanese Encephalitis

検疫所 FORTH ホームページより

<http://www.forth.go.jp/useful/infectious/name/name46.html>

日本脳炎はアジアで広く流行している病気で、毎年、3万5000～5万人の患者が発生しており、1万～1万5000人が死亡していると推定されています。日本でも、かつては患者が多くみられましたが、予防接種が開始されて、患者数は著しく減少しました。

日本脳炎ウイルスは、蚊によってブタから人に伝播します。日本脳炎は、高温多湿な気候で、ブタなどを飼育し、蚊の発生しやすい水田のある地域に多く発生しています。

温帯地域では夏期に、その他亜熱帯・熱帯地域では雨期に発生が多くなります。

どうやってうつる

日本脳炎は、フラビウイルス科に属する日本脳炎ウイルスによって引き起こされるウイルス感染症です。

日本脳炎ウイルスはブタの体内で増殖し、蚊によってブタからブタにウイルスが伝播します（ブタ→蚊→ブタの流行）。一方ヒトは、ブタから感染した蚊に刺されて感染します（ブタ→蚊→ヒト）。ヒトからヒトへの直接感染はありません。ウイルスの媒介蚊は、主にコガタアカイエカ（コガタイエカ）で、日本をはじめ多くのアジア諸国に生息しています。

症状

ウイルスを保有する蚊に刺されても多くの人は症状が出ません。感染した人のうち、100人から1,000人に1人の割合で発病するといわれています。通常6～16日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔気、嘔吐がみられます。次いで、意識障害、けいれん、異常行動、筋肉の硬直などが現れます。重症例のうち50%が死亡するといわれ、生存者の30～50%に精神障害や運動障害などの後遺症が残るといわれています。

治療

特別な治療法はなく、対症療法が行われます。

予防

蚊に刺されないように注意しましょう

虫よけスプレーや蚊取り線香などを利用し、肌を露出しない服装を心がけましょう。特に蚊の発生が多い水田地帯やブタなど動物を飼育している地域では、防虫対策を忘れないで下さい。中国や韓国では、夏から秋に、インド北部やネパールなどでは6月から9月頃の雨期に、蚊の発生が多くなります。他の熱帯地域では、年間を通して防虫対策を忘れないで下さい。

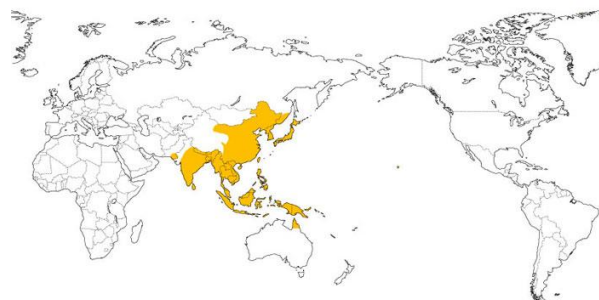
日本脳炎ワクチンの追加接種

定期の予防接種を完了していても、予防接種の有効期間は3～4年といわれています。この期間を経過した後に、流行地域（特に農村部）に長期間渡航される方は、追加で1回接種し、以後3～4年ごとに接種することが勧められます。虫よけスプレーや蚊取り線香などを利用し、肌を露出しない服装を心がけましょう。

危険のある地域

日本、韓国、中国、ベトナム、タイ、カンボジア、マレーシア、ラオス、ミャンマー、フィリピン、インドネシア、ネパール、バングラデシュ、インド、スリランカ、パプアニューギニア、台湾、ブルネイ、パキスタン、シンガポール、米領グアム、米領サイパン、オーストラリア（クイーンズランド州北部）、ロシア（極東部）

日本脳炎のリスクのある国(2012年)

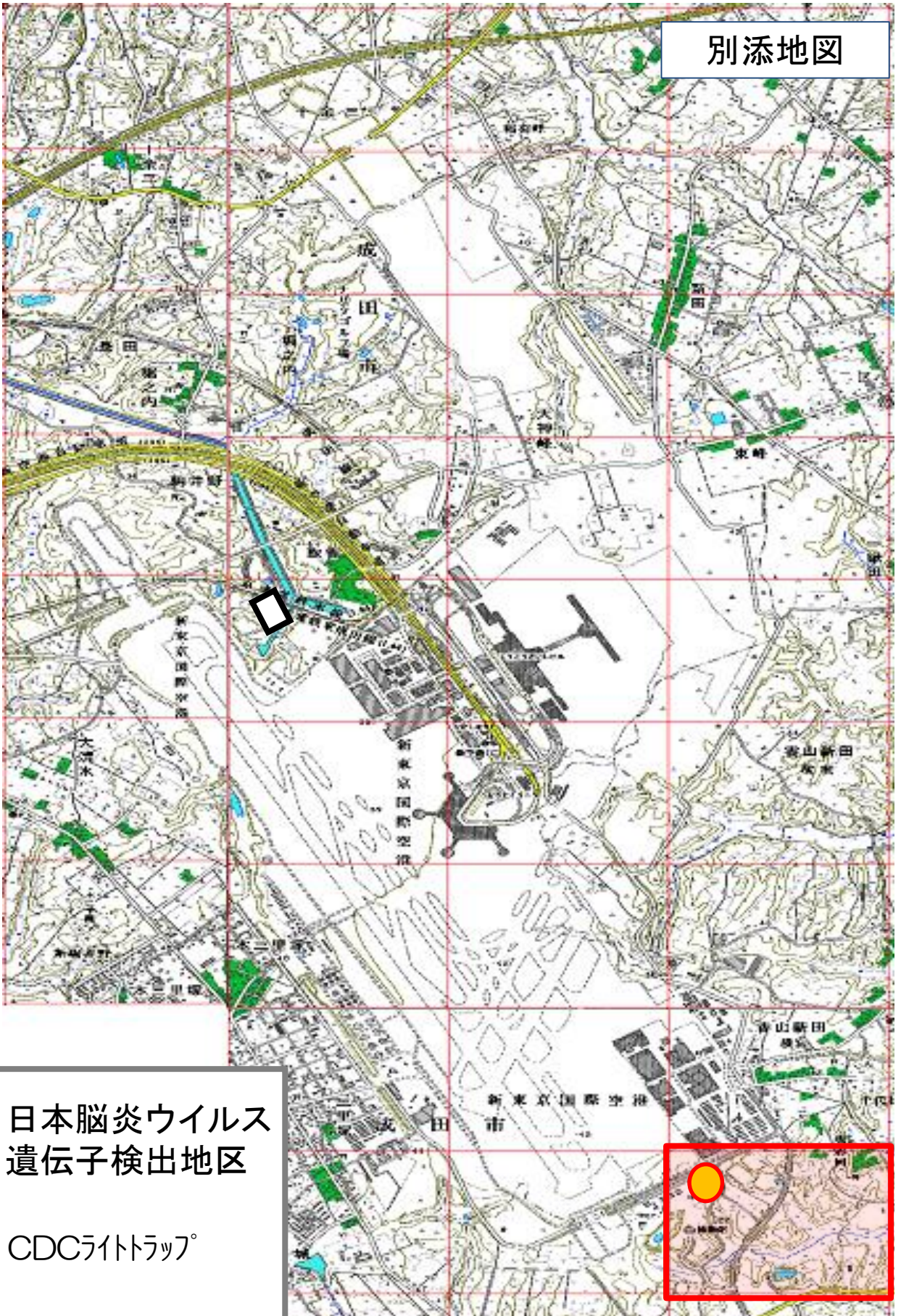


■ 日本脳炎のリスクがある国および地域

出典: 2012 WHO International travel and health

成田空港検疫所各調査定点（全体図・CDCライトトラップ）

別添地図



日本脳炎ウイルス
遺伝子検出地区

CDCライトトラップ